



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

広島陵北ロータリークラブ

- The Weekly Report -

～クラブのテーマ～

こころゆたかなロータリアン

～本年度会長方針～

ロータリアン 一歩 前へ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012年度
R.I.会長メッセージ

第1013回例会 2012年2月29日 No.984号

■ 会長時間



会長 南條 泰

1905年2月23日はロータリーが創立された日です。

ポール・ハリス、ガスターバス・ローア、ハイラム・ショーレー、シルベスター・シールの四人がシカゴで初めてのロータリークラブ会合を開き、自分達の体験談を語り合いました。その会でハリスはロータリーの例会を毎週開くアイデアを提案しました。これが、世界初の奉仕クラブ、シカゴ・ロータリークラブの始まりです。ロータリーの名前は会員の仕事場を持ちまわりで会合を開いた初期の慣習に

由来しています。その後、例会場所となったシカゴのユニティビル711号室をドアー、ラジエーターなど内装品を全て取り外し1993年にシカゴ郊外にあるエバンストンの国際ロータリー世界本部に永久保存しています。シカゴに行かれたときは是非お立ち寄りになり感想を聞かせてください。

皆さんが例会時に付けておられるロータリーの徽章については、1924年以来デザインは変わっていませんが、それより以前は各クラブ似たようないろいろな徽章が使われていたようです。1921年の大会で正式承認されましたが、1924年に真ん中に鍵穴をつける修正がなされ、理事会で新たな徽章の使用を承認しました。なぜ真ん中の鍵穴がついたかといいますと、鍵穴がないと車輪は空回りして動力が伝達されないからです。1929年の大会で最終承認されました。このようにバッチひとつをとっても紆余曲折があったようです。ロータリークラブは炉辺会議を開くほど意見がまとまるものなのです、先人の苦勞が目に見えるようです。

次の例会ではロータリーはなぜ木を植えるのかをお伝えします。

心ゆたかなロータリアン 一歩前へ進みましょう。

今回の例会(3月7日)

来賓卓話
広島県警察本部 生活安全課 安全安心推進課
減らそう犯罪情報館 広島県警視
小西 明様

次回の例会(3月14日)

クラブフォーラム

幹事報告(渡部幹事)

■出席報告

■例会変更

・広島北RC 「職場訪問例会」
【とき】3月22日(木) 12:30～ ※同日変更
【ところ】(株)やまだ屋 おおのファクトリー

・広島中央RC 広島廿日市RC 3月19日(月)「休会」
・広島北RC 3月29日(木)「休会」

■お知らせ

・3月会費のご案内を配布しておりますので、必ずご確認の上お持ち帰り下さいませようお願いいたします。

出席報告(渡部幹事)

2月29日(水)出席者

会員総数	38名
出席会員	31名
欠席会員	7名
ご来賓	1名
ご来客	6名
ゲスト	0名

来賓者紹介(南條会長)

2月29日(水)出席者

西条RC	1名
玉野RC	1名
広島RC	2名
広島南RC	1名
広島中央RC	1名

米山功労者表彰

下田敬三君が第2回米山功労者表彰を受けられました。



.....SMILE BOX

堀江正憲 君、信原弘 君

天野先生、本日の卓話ありがとうございます。寝ないで下さい。

当日計

5,000円

累計

686,189円

【例会】 毎週水曜日(12:30～13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】南條 泰 【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F

【TEL】082-221-4894

【幹事】渡部 邦昭 【ホームページ】http://www.ryohoku-rc.jp/

【FAX】082-221-4870

来 賓 卓 話

スカイクリニック 院長
天野 國幹 様

潰瘍性大腸炎という病気があります。

この病気は原因不明で主に若い人に発症し、現代の医学では有効な薬がなく、腸に潰瘍ができ出血を起こし、最終的には大腸全摘という手術を行わなければ命を教えない場合があると考えられています。

この病気の人は日本で約12万人おられ、そのうちの2000人以上(約2%)を私が治療しています。有効な薬(まだ証明と認可はされてませんが)を見つけたためです。今までのデータでは、来られるのが早ければ手術を回避できる可能性があります。ただまだ特許も取れておらず、そのため成分の開示ができず、ほかの先生もその正確なデータを知ることができません。そのためこの薬に対して否定的に考えられ、治療に苦戦していますが、縁と運のある方が全国(海外からも)から来られ、その95%以上の方に効果を満足していただいています。



最近治療のガイドラインというものが確立されて、基本的にはこれを順守することが標準的治療と考えられています。その観点から見ると、私の治療は完全にそのガイドラインから外れています。ガイドラインから外れているという治療を行うには少し勇気がいります。というのはガイドラインにない治療をしているということで訴訟が起こっているからです。しかし訴訟の多くは感情的なことが発端となっていることが多く、信頼関係をしっかり築いておくことが非常に大切なことと考えてます。

さて、医療はもともと「健康でない人に対し行われる、安全とは言えない行為」であり、それゆえに安全に対し常に注意と関心が必要です。また人間はもともと間違いを起こすものであり、人間が医療を行う以上、医療界はこの間違いが実際に患者さんに影響を与えないようなシステムの構築を考えることが大事です。

一方、正当と考えられる医療を行っても紛争となる場合は、医療側と患者側には医療そのものの認識にギャップがあるからです。医療が進歩しているという報道がたくさんありますが、人間のメカニズムに対してほとんど医療は無力です。どんないい医療をしても寿命があります。神が作ったメカニズムの複雑な人間の治療ですから、私は治るものは病院に来なくても治るし、高血圧や糖尿病のように治らないものは治らないと考えてます。

病院では自然経過を少し良い方向にできる可能性がありますので、病院に行くことの意味がないということではありません。診断に対しても絶対ということはなく、医者によって違う判断が出て、どちらがより可能性のある診断かぐらいは区別ができますが、その判断も絶対というわけではありません。こういった医療事情を医療界以外の人に知ってもらうことにより対立構造をなくしていきたいと思ってます。